

平成25年度 分掌・学年努力目標に対する評価

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間評価	問題点・課題等
教務部	校務の円滑な運営を図る	主任会を通して他分掌との連携を図り学校行事の円滑な運営に努め、学校の活性化を図る。	毎月主任会を開催する。	3.7	
		職員朝会の伝達がスムーズに行えるように、黒板の工夫、朝会黒板画像を活用する。	2日分の日程が書き込める様な黒板の工夫を行う。	3.7	
		生徒の実態を踏まえ、学期毎の追試験・補講に取り組む。	3月までに内規の不備を確認する。	3.3	
	授業の充実に努め、学力の向上を図る	行事の精選や時間割の調整・変更をおこない授業時間数の確保に努める。	1単位あたり30時間以上の実施授業時数を確保する。	3.0	
		シラバスを作成し、より充実した内容への点検作業を実施する。	年度末までに次年度分を作成。各学期終了後点検。	2.7	
		生徒の学力の実態を把握し、より実践的な授業研究に努める。	公開授業を年間を通して行う。	3.0	
	生徒の進路希望に対応できるコース制を研究する	生徒の進路希望や実態を取り入れた教育課程を編成する。	7月中旬までに終了	3.3	
		魅力あるコース制の研究に努める。	年間を通しておこなう。	3.0	
	PTA・地域社会との連携をはかり教育効果を高める	地域社会及び中学校との連携を深める。	随時	3.0	
		HP・学校だよりを利用して学校のPRに努める。	随時更新を促す。学校だよりを毎月発行する。	4.0	
		PTAとの相互理解を深め、活動の活性化を図る	各種行事の参加案内を3週間前に配布する。	3.0	
	教職員の各種研修・研究を推進し、教育活動の活性化を図る	各種職員研修や報告会を定期的に開催する。	教務、生徒指導、保健相談に関わる研修会を各1回以上おこなう。	3.3	
		各種研修会と、研修の充実に努める。	学期に1回は行う。	3.0	
		教科会等を利用して指導法の研究に努める。	各教科公開授業を行う。	2.3	
	読書活動の推進と図書館の充実に努める	「読書の時間」等を通して、生徒の読書量を増やしていく。	毎日「朝の読書」を実施する	2.7	
		生徒の興味・関心を促すような図書を購入し、図書館の充実に努める。	年2回希望図書の購入をおこなう。	3.0	
	環境美化	掃除の徹底	学期に1回は必ず掃除箇所の点検をして掃除用具の補充を行う。	3.0	
		掃除監督の徹底	生徒会の委員会活動を利用して掃除監督者との連絡指示を徹底する。	2.3	
		ゴミの分別	毎日、係の美化委員で整理する。	3.0	
	施設・設備	掃除用具の整備、点検	各学期ごと、最後の掃除で整備点検する。	2.7	

平成25年度 分掌・学年努力目標に対する評価

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間評価	問題点・課題等
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	容儀指導の徹底を図る。	毎月、容儀指導強化週間を設けて指導を行う。	3.5	
		公と個の場面を理解して、自らの行動を律することができるようにする。	集会時の整列・私語厳禁・美しい容儀について全職員一体となって指導を行う。	3.5	
		時間厳守指導の徹底を図るため、全職員が授業の開始時間を厳守する。	毎授業時におこなう。	3.0	
	公共心の育成	乗車マナーの向上を図るため、JRおよび島鉄の乗車指導を徹底する。	年間10回の乗車指導を実施する。	3.0	
		学校周辺の商業施設での利用マナー等の指導を強化する。	定期的に巡視等を行い・地域関係者と交流し、情報を共有する。	3.5	
	生活委員会の充実	挨拶の励行を図るため、職員・生徒が一体となり挨拶運動を推進する。	年8回、生活委員・各部リーダーと一緒に登校指導をおこなう。	4.0	
		駐輪場の整理整頓および安全確認に努める。	月1回生活委員で駐輪場の整理整頓および二重ロックの確認を実施する。	3.0	
	分掌・学年等との連携	生徒の実態把握と理解を深めるため各学年・分掌との連絡を密にし、指導の強化を図る。	各学年主任・分掌主任と毎月1回は会合を持つようにする。	4.0	
		学年・分掌と協力して、リーダーの育成を図り、生徒の自主性を育む。	年間2回のリーダー研修合宿を学年・生徒会と連携して実施する。	4.0	
	進路指導部	学習の定着と基礎学力向上	・進路希望調査実施と学力向上につながる補習・学習会・模試の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を年3回実施 ・モートレ、補習、模試の有効活用、夏季学習会と冬季学習会の実施 ・各学年・教科と連携をとり、学力検討会を実施 ・学力検討会を3回、志望校検討会を2回実施 	
・進路実現のため全職員による進路体制の確立			3.6		
・モートレ、補習、土曜日・長期休業中の学習会で学習習慣の定着			3.5		
個々の進路意識の高揚		・学年・進路別集会、進路講演会・進路ガイダンスの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会やガイダンスを学年ごとに年2回づつ開催 ・小論文・教科の添削指導 ・受験前に5回以上の模擬面接 ・進路説明会・職場見学への協力 	3.6	
		・ファイナシステム等の成績分析を通しての進路相談		3.6	
		・2年次でインターンシップを実施し、職業観を育成		3.4	
		・個に応じた小論文・面接・教科指導等の計画実施		3.3	
進路情報の提供 進路室の有効活用		・進路希望を把握し、適切な進路情報の精選と迅速な提供	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスに進路に関する情報誌等を年6冊配布 ・ファイナシステムなどにより担任に学期に1回資料提供 ・「進路だより」の年4回以上発行 ・定期的な資料の更新と掃除の徹底 	3.0	
		・『進路だより』等で情報の提供を行う。		3.8	
		・模試データ等を分析し、学年や教科と情報の共有・有効活用		3.4	
		・進路室のデータの系統的整理整頓		2.9	

平成25年度 分掌・学年努力目標に対する評価

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間評価	問題点・課題等
生徒会指導部	自治能力の育成	挨拶の励行に努める。	授業開始、終了の挨拶の改善を図る。	3.0	・先生方のご協力で各行事をスムーズに運営することができた。 ・各部顧問と連携しながら部室の管理を徹底しなければならない。 ・7月に新生徒会総務に交替し、新しいメンバーで協力して様々な行事を成功させることができた。
		各行事がより活性化するよう内容を工夫し、スムーズな運営に努める。	前年度の内容を一つ以上改善する。	3.7	
	活動の活性化	各種委員会において、具体的な活動内容を定め、各分掌と連携しながら取り組む。	取り組む内容を具体的に2つ以上決め、目標について全校生徒に周知を図る。	3.0	
		入部状況の調査を定期的に行い、各学年と連携して、無所属生徒の活動の場を設ける。	4月、9月、1月に実施。	3.5	
		学校HPを活用し、生徒会活動や部活動の広報に努める。	随時更新する。	3.5	
	活動等の見直し	部室の使用状況を定期的にチェックし、部室を適正に使用するよう指導する。	年間5回部室の使用状況のチェックを行う。	3.0	
		会則・内規・申し合わせ事項の運用状況を確認し、必要に応じて見直しを図る。 また、長期的な展望に立って生徒会予算を編成する。	2学期終了までに部内で検討を行い、3学期の部顧問会・職員会議に諮る。	3.0	

平成25年度 分掌・学年努力目標に対する評価

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間評価	問題点・課題等
保健相談部	規則正しい生活習慣の確立	・自己管理能力の具体的な手だての実施	『保健便り』を年間9回発行し、啓発する。	4.0	今年度は10回以上発行できた。
		・健康診断の事後指導の徹底	該当生徒の保護者への連絡を徹底する。	3.5	治療勧告は出しているが、治療に行かない生徒が多い。
	安全で衛生的な教育環境の整備	・救急の場合の円滑な生徒への対応の実施	校医との連携をスムーズに行い安全面の強化を図る。	3.8	校医と密接に連絡を取り確認しているので、スムーズに検診を実施できた。
		・安全衛生に対する知識と理解の深化	安全衛生委員会を2回開いて、問題点の解決を図る。	3.8	今年度から月1回の「安全点検日」を実施した。
	学校生活への適応援助活動の徹底	来談生徒への受容的態度の徹底、心を開く環境作りの実践	来室しやすい相談室となるよう心掛ける。	3.2	予定通り実施し、いじめ解決やSC面談につなぐことができた。
		不適応生徒の早期発見・支援	日頃から担任・学年との情報共有をはかる。	3.8	
		いじめの予防・解消、各種調査の実施と分析	いじめ・悩み調査を年5回実施し、迅速な発見と対応をはかる。	3.8	
		生徒理解のための、心理テストの実施と活用	内田クレペリン・シグマ検査の報告会を、1・2学年に1学期中に実施し、検査結果の活用をはかる。	3.8	
	各分掌・学年・スクールカウンセラー・保護者・中学校・外部機関との連携の深化	特別支援コーディネーターとスクールカウンセラーの連携を強化	日頃からスクールカウンセラー、養護教諭、担任・学年との連携を密にし、情報の共有をはかり、適切かつ迅速な対応を行う。	3.8	今年度からSC面談の後、養護教諭と共にコンサルティング(面談報告)を受け、SC面談の翌日には「カウンセリング」の報告を各担任に行った。養護教諭からSC面談につなぐパターンが多かった。また、1年生の面談依頼が早めで、重度になる前に早期の対応をはかることができた。
		事例研究などをすすめ、職員の共通理解を深化させる職員研修の実施	A T合格者発表後、中学校訪問を実施し、新入生に対する適切な支援・指導に役立てる。中学校訪問報告や事例研究を含め職員研修を年間3回行う。	3.8	不登校生徒や不適応生徒についての情報共有のための研修に発達障害傾向生徒を含める予定である。
	地道で円滑な奨学金の運営	各種奨学金の紹介、手続きの徹底	必要に応じて、生徒・保護者への説明会を行う。	4.0	予約奨学金申込生徒は25名で多かった。
	教育活動の土台としての人権・同和教育の推進	生徒間に自尊感情・思いやりのこころを育成	2学期に講演会を実施する。適宜、機会をとらえて集会などで呼びかける。	3.8	今年度は「スマホ」についての講話の他、SCによる講話を2回実施した。
事務部	組織的取組の推進	・学校窓口としての認識(丁寧な来客・電話対応等)	随時	3.8	・点検を学期に1回から、月に1回に変更
		・教育行政の円滑化(県教委・校内とも早期の報告・連絡・調整)	随時	3.6	
	予算執行の適正化	・長崎県財務規則に則った計画的かつ適正な予算執行に努める	随時	3.7	
	施設設備の改善	・長期的展望と生徒の目線に立った改善に努める	月に1回以上安全点検を行う	3.8	
	環境美化(対策)	・節電・ゴミの減量化・分別の広報と実践(教職員・生徒)に努める	適宜行う	3.8	

平成25年度 分掌・学年努力目標に対する評価

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間評価	問題点・課題等
1学年	「自主自律」の基礎となる学力と生活態度を組織的に身につけさせる。	授業の質の向上を目的に全時間公開授業とする。	全時間を公開授業とする。	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が参加しやすいよう、授業参観の日を設定した。 ・生徒は落ち着いて授業に参加しており、授業妨害への対処は特に必要がなかった。 ・12月からは宅習ノートも始めた。自宅で学習の習慣がついたという保護者の声もある。 ・教科担当者と担任が連携して、課題の未提出者への指導ができた。 ・基礎クラスは2学期末、標準クラスは1学期末に完了した。 ・個別指導が軌道に乗らなかったが、標準クラスのモットレは一定のレベルでき、実力テストでも結果が出ている。 ・授業参観を2回、修学旅行説明会を1回実施した。保護者の参加は約3割。保護者との信頼関係を築くのに有意義だった。 ・1月末現在で無欠席生徒は62人(54.3%)そのうち皆勤は47人。 ・11月に実施し、長欠生徒以外は全員参加。学校見学で学習意欲が顕著に向上した生徒が見られた。 ・総務委員を中心に中堅学年としての自覚 が徐々に芽生えてきた。 ・修学旅行時の生徒の行動は良好であった。
		生徒が授業に集中できる取り組みを機能的に行う。	全授業で行う。	2.7	
		宿題を計画的に課す。	国・英・数はほぼ毎日宿題を課す。	3.3	
		担任や教科担当者が居残り指導を行いやすいよう連携する。	毎日、学年で情報を共有し、連携する。	3.1	
		国・数・英の学び直し(マナトレ教材)を年度の早い段階で完了させる。	基礎クラスは1学期末考査、標準クラスは1学期中間までに完了させる。	3.1	
		成績上位者に対して添削等の個別指導を行う。	10名程度の生徒を対象に5月から始める。	2.2	
		授業参観、懇談会、個別面談を計画的に実施し、保護者との連携を深める。	授業参観、懇談会、個別面談の機会を年3回以上設ける。	3.4	
		年間皆勤賞、年間無欠席賞を設け、年度末に表彰する。	学年の過半数の生徒が年間無欠席であるようにする。	3.1	
		進路に関する情報を与えつつ、自ら情報を得るように指導していく。	学校・企業見学会を開催する。	3.4	
2学年	爽やかで豊かな心の育成	部活動・学校行事・生徒会活動に積極的に参加させ、東高の中堅学年としての自覚を持たせる。	各活動において、目標を立てさせ、真摯な態度で取り組ませる。	3.3	
		思いやりにあふれる豊かな感性の育成を図り、自律した生活の確立に努めさせる。	「東志」の時間を年間5回以上実施する。	2.9	
		朝の読書の時間や掃除の時間を通して、生活環境の充実を図らせる。	毎日、監督につき指導する。公共物の大切さを自覚させる。。	3.1	
	生活指導の充実	保護者との連携を密にし、学校と家庭が共通理解のもとで、生徒の健全な育成を図る。	欠席・遅刻の連絡は原則保護者にしてもらおう。	3.4	
		気持ちのいい挨拶と敬語を用いた言葉遣いを身に付けさせ、礼儀正しい生徒を育てる。	授業開始の挨拶、集会時の挨拶などを大きな声で爽やかにさせる。	3.0	
		基本的な生活習慣やマナーを守らせ、品位と落ち着きのある生徒を育てる。	私物を机の上やロッカーの上、床に置いて帰らせない。	3.1	
	学習・進路指導の充実	時間厳守の姿勢を育て、安易に遅刻・欠席をしないように努めさせる。	日々の遅刻指導および授業開始時の時間厳守を意識させる。	3.0	
		基礎・基本を重視した分かりやすい授業を心がけ、基礎学力の定着を図る。	各教科で研究授業または公開授業を1回以上実施する。	2.9	
		授業を中心にして、モットレ・補習・学習会を効果的に運用する。	定期考査時間割発表日の放課後より自学を実施する。コースに応じた学習形態を計画する。	3.4	
	適切な進路情報を提供し、キャリア教育・職場体験学習などを通して、進路に対する意識を高めさせる。	LHRなどを利用して個人面談を2回以上実施する。キャリア教育・職場体験学習を実施する。	3.5		

平成25年度 分掌・学年努力目標に対する評価

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	年間評価	問題点・課題等
3 学年	学習・進路指導の充実	大学入試（センター試験、推薦入試、AO入試）に対応した補習、学習会、小論文・面接指導、個人添削等の指導を充実させる。	国公立大学合格者5名以上	2.6	<p>・進路実現達成に向けて、協力体制は築けていた。全職員で面接指導など前向きに指導できた。</p> <p>・進学に関して合格者人数目標に到達できずに低い評定になった。しかし、長崎県立大学、名桜大学への合格者を出せたことは良かった。また、経済的な理由で進学先に制限がある生徒が多かった。</p> <p>・全クラスとも二人担任制は、うまく機能していた。ペアリングの問題もあるが、次年度も是非、続けてほしい。</p>
		高看不入試に対応し、補習、学習会、小論文・面接指導等の指導を充実させる。	高看合格10名以上	2.7	
		就職試験に対応した補習、学習会、面接指導等を充実させる。	就職率100%	3.5	
		生徒の進路について保護者との連携を密にする。	三者面談2回以上	3.2	
	爽やかで豊かな心の育成	生徒とのコミュニケーションを活発に行うとともに、計画的面談を実施し、生徒理解と信頼関係の構築を図る。	個人面談を3回以上実施し、生徒の情報は学年で共有する。必要な面談は機を逃さずに行う。	3.6	
		爽やかな挨拶と言葉遣いが適切にできるようにする。	日常的に指導する。	2.8	
		クラスの生徒を二つに分けて担当しない。二人ともクラス全員の担任として認識させる。	毎朝のSHRは二人で実施する。三者面談も二人で実施する。ただし、事務的な作業は二人で効率よく行う。	3.3	
	生活指導の充実	清潔で端正な身だしなみをさせる。	容儀検査で指導される生徒を10人以下にする。	2.8	
		生徒の生活面について保護者との連携を密にする。	欠席、遅刻、早退などは確実に連絡を取る。気になる点は早期に連絡する。	3.3	
		規則正しい生活を送らせ、安易な欠席を減らす。	学年の年間出席率99%以上。	2.2	